

しょうとく ほいくえん

しよ うらいずっとこの場所で永遠に子どもたちと過ごしたい想いと裏腹に、この地の建築制限は非常に厳しく、それを制限の諦観に終わらず積極的なアイデアで、それを感じない建築を目指した。

う つりゆく四季の中で育まれた越後杉などの木質材を多用し、その特徴と環境を考慮した園舎は、大切な桜の木を保存し、東西の敷地境界に沿う形で佇んでいる。

と にかく、限られた面積を有効利用するため、2階は可動間仕切壁でフレキシビリティに配慮した。遊戯室は昇降式ステージ、更に東側隣地の園庭を取り込むガラス壁とし、スペース以上の広がりがあり、屋上はデッキ敷の空中庭が開放感を与える。面積制限のためにできた1階テラスは、トップライトから建物を貫通し光を落す工夫をした。また東面は象徴的な朱いカーテンウォールを持ち、これは旧園舎の特徴だった朱い屋根を継承している。

く ふうにより制限を感じない豊かな空間、小さな建築で得る大きな体感。負は負でない積極的な建築となった。



ファサード



北東より見る



南東より見る



朱色に縁取られた黒のガラスに映し出された桜



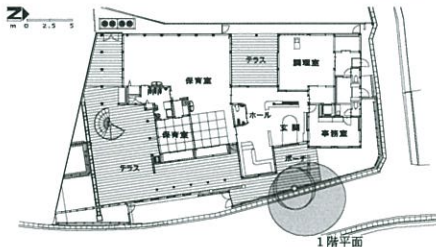
桜を映し込むカーテンウォール



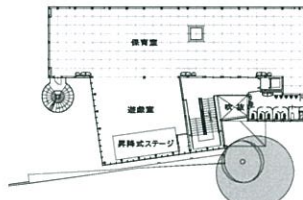
1階保育室



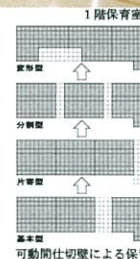
1階保育室とテラス



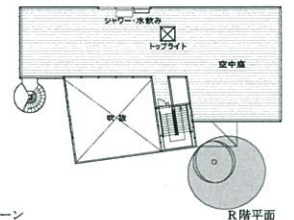
1階平面



2階平面



可動間仕切壁による保育室のパターン



R階平面



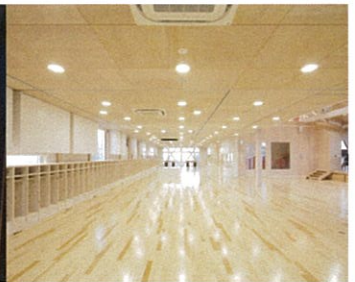
DATE
敷地面積 : 669.73㎡
建築面積 : 375.88㎡
延床面積 : 669.56㎡
階数 : 地上2階+R階
主要構造 : 木造



乳児室



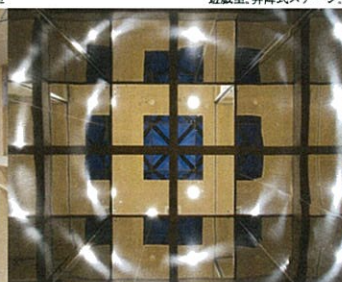
遊戯室、昇降式ステージ



2階フロア、可動間仕切壁を全開放



屋根から2階を貫いて1階に光を落すトップライト



トップライト見上げ、ステンレス仕上が華鏡を創る。



空中庭